加茂里山通信創刊１０周年

加茂里山通信

そして一〇年がたち

十年前に「過疎の地」と言われ、老人世帯の比率が高いこの地区で「情報紙の必要性があるかどうかはわかりませんが、この地に生活する人々が加茂の良さを再認識し、故郷の小さな宝を拾い出し、生き生きと楽しく暮らしていければ…豊かな自然を次の世代にもっと良い状態で残せれば…そんな思いを込めて「加茂里山通信」を創刊しました。どのくらいのことを伝えることができたか。どの位の思いを発信することができたのか。そこはまだ定かではありませんが、十年継続して発行を続け、加茂地域にはこんな情報誌があると多くの方に認識していただき発行を楽しみに待っていただけるようであれば、続けてきたことの意味があります。継続することにより、ここを一通過点としてさらに先を目指して編集部一同がんばる所存です。

無限の可能性の春

時はまさに春。また準備も整わないうちに初夏のような天気が続いたために、今年は例年より2週間も早く桜が咲き始めました。しかし加茂地区のソメイヨシノは先っちょにぽつぽつと咲いた程度で終わってしまいました。それに引き換え、山桜の類はそんな気候の急激な変化にも柔軟に対応し、見事に花をつけました。ことに渓野の奥田郎桜はあふれんばかりの花に満たされていました。山のあっちこっちに散見される山桜も美しく咲き誇りました。石神の見渡すばかりの菜の花の景色も別世界のような趣でした。あふれんばかりの香りに包まれ、しばし俗世間を離れることができるのか、長い時間眺めている人もいました。この他にも加茂地区を少し走ってみるといたるところに花を見ることができます。人家の庭先には若ソツジや水仙、ぼけ、源平桃などがこれも見事に花を咲かせています。

来年の3月には古屋鑑賞祭・いはばアート・ミックスが開催されますが、3月から5月にかけて訪れるであろう多くの人は、芸術作品だけでなく、この加茂の里山の春をも満喫することでしょう。来年はそれこそもっと良い菜の花を植えてやると、今年あまりうまくいかなかったところの関係者は思っているはずです。たくさんの人に自分たちの手塩にかけた菜の花を見てもらおうという考え方に移したら、本当に素晴らしい景色が加茂のあっちこっちに出現することになります。みんなで競い合ってそんなことをしたら、それこそアートミックスにも負けない景観を自分たちで作り出せるかもしれません。

私たちの地を私たちの手で変えていく。その可能性は無限です。

（企画室山通信員）

加茂里山街道　春爛漫！

加茂学園が開校！

市内初の小中一貫教育校「加茂学園」が、市長・教育長を始めとする多くの来賓が見守る中、4月8日に開校しました。11日には入学式を迎え、ピカピカの1年生21名が新たに仲間入りし、全校在籍は262人でのスタートとなりました。教職員は校長、副校長、教頭2名をはじめとする42名で、加茂の宝である子供たちの教育に当たっていただくことになります。

入学式では新1年生が7年生と手をつないで入場するなど、心憎い演出もあり、国歌や校歌の斉唱では在校生の大きな声が体育館にこだまするなど、早くも加茂の子供たちがひとつになっているような印象がありました。これから圏央道の開通や来年3月に開催されるアートミックスなどで、加茂地区が大きく変化する中で、ふるさとを愛する心を育てて行っていただきたいと思います。

加茂学園の校歌は加茂中のものをそのまま使う事になりました。「加茂の学舎よ…」から始まる歌詞は低学年の子供には少し難しいのですが、開校式ではみんなが大きな声で歌っていたのが印象的でした。校歌の最後は「学舎の鐘音冴える朝」ですが　実は加茂学園には冴えわたるような音の出る鐘がありません。来賓の一人が言っていましたが、シンボルとなる鐘があると更に良い環境になるのではないでしょうか。

加茂学園の児童生徒数次の通りです。

（天曽根・里山通信員）

計	男	女
262	129	132

計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
21	11	11	6	12	17	18	15	20	19
24	10	13	15	14	17	11	16	22	15
45	21	24	21	26	34	29	31	42	34

加茂小学校第一期生です

入学おめでとう　みんなが応援してるよ　がんばれ！！

担任の先生より

加茂学園初めての1年生21人が入学しました。男の子11人、女の子10人の元気な加茂っ子です。広い学区から集まって来ているので初めて会った友達がほとんどでしたが、3日が立つ頃にはすっかり仲良くなり、休み時間には元気に校庭で遊んでいます。また、掃除の時には後期生のお兄さんお姉さんと一緒の活動もあり、とてもほほえましい様子が見られます。

高滝小学校

がんばった全校児童の発表会

平成二十五年二月末をもって、百四十余年の歴史を刻んだ高滝小分校となり、新たに加茂小中一貫校として出発することとなりました。この一年、本校児童及び教職員は、まさに開校を意識した一年でした。但し、開校に臨まれることなく、また浮足立つ事無く、地に足をつけた教育を進めながら、同時に「この特別な一年を生かさない方法は無い」と考え、全員で導きだした回答は、学校・地域を深く見つめる学芸発表会でした。

「現在の地域の様子を学習した子供たちは、徐々に昔の時代に思いが向けられ、高滝小・高滝地区の変遷を学び知って行く」と言うストーリー仕立ての発表です。お父様として、地域全体に投げ掛け、来場を願いました。

この学芸を終える中で、子供たちは「知」の他に「情」を持ってくれました。つまり、故郷への思い、母校が閉まることへの寂しさと悲しさ、そして愛着、閉校と言う、市内の他地区の学校では味わえない経験は、高滝の子の情操の育成に、大きな大きな力添えをしてくれていることでしょう。このような経験の積み重ねが種に、明確で強い「意志を持った大人として成長してくれることと考えます。高滝地区の教育の灯を行い続けた高滝小の閉校を思うにつけ、寂寞感に囚われてしまう恐れ高滝小教職員ですが、加茂学園での新しい教育が待っています。今は、その成果に期待するばかりです。高滝小の子、そして加茂地区の子、頑張れ！！

高滝小学校長　永島光明

里見小学校

明日に向かって

♪みどりの野山は　朝日に映えて　母校と仰ぐ

平成二十四年度の学校行事も含め、里見小学校の全ての活動テーマを児童及び保護者の皆さんから募集し、最終まで「飛び出せパワー　みんなの笑顔」と設定しました。

本年のスタートは、四月、「とびっきりの笑顔」で新入生を迎える入学式・五月、歓声に包まれ地域OB・OG も参加30０人の最後の運動会・地域ボランティア支援で児童が育てたお餅を地域の方たちとほうばった味は最高でした。本年里見小学校の活動テーマのもと様々な取り組みをしてきました。そして、活動の中心として、在校生二十二名、教職員十三名をリードしてくれた九名の里見小学校最後の六年生を送り出しました。里見小学校百周年記念・閉校式では、里見小学校地域、卒業生、旧職員数百人の方々をお招きし里見小学校の校旗を市原市へ返納しました。そして里見百年の思い出を語り合いました。

四月からは加茂四小学校がそれぞれの学校の培ってきた素晴らしい伝統を融合させ、次世代に生きる逞しい子ども達を育み、明日に向かって新しい伝統を築いて欲しいと願うばかりです。・・・さよなら里見小学校。

里見小学校長　三島茎典

小学校は心の中に生きてゆく

４つの小学校が閉校式

この三月に高滝・里見・富山・白鳥の四つの小学校がその長い歴史に終止符を打ちました。中には百四十年もの歴史を刻んだ学校もあります。それぞれの学校は単に地域の小学校というだけではなく、地域のみんなの心の拠り所でした。小学校で過ごした日々や友人たちと時間は何物にも代えがたい大切なものとして深く心のうちに存在し時にはやすらぎでもありました。

少子化という避けられない現状と子供たちの競争力のある教育環境を考えるとき、加茂の小学校を一つにすることはやはり時の流れとして致し方ないものと思います。それでも地域に根差した小学校から聞こえていた子供たちの声が消えてしまうことはとても残念なことです。子供たちの元気な声はなによりも地域の励みでした。

しかし、後ろばかりを見ているわけにはいきません。四つの小学校を一つにしたことが子供たちにとって本当に良かったという結果になるよう、関係者の努力だけではなく、地域のみんなが見守り、バックアップしていかなければならないと思います。

加茂学園の新しい時代の幕開けにふさわしい学校であってほしいと願います。

（企画室山通信員）

富山小学校

心に刻まれた閉校式

平成25年3月24日に富山小学校閉校記念式典が盛大に開催されました。

第一部では、校長から佐伯市長さんへ校旗が返納されました。市長さんは校旗を持ち、体育館フロアーを一周して下さいました。

第二部では、本校卒業生の白鳥冬さん（マルタ共和国名誉総領事）の講演で始まり、米村でんじろうさん（サイエンスプロデューサー）の後輩へのビデオメッセージが届けられました。さらには作曲家でミュージシャンの伊藤詳さん一夫婦によるシンセサイザー演奏がありました。特別ゲストの、歌手のミネハラさんのライブステージや女優・チュリストの高木沙耶さんのスペシャルトークでおおいに盛り上がりました。

会の終盤では、参加児童が体育館いっぱいに輪になり、富山地区に伝わる「炭焼き音頭」を踊りました。フィナーレは、富山小児童26名による、お別れと感謝の言葉と歌声が体育館に響きわたりました。児童たちは富山小関校のさびしさを秘めながらも加茂学園での新しい学校生活に伝統を築くことへの期待を胸にしました。

富山小は、学校目標のひとつとして「地域と共に創る学校」を掲げてまいりました。今日までやってこられたのは、保護者の皆様、地域の皆様をはじめとして関係各機関のご協力とご理解のお陰だと思います。誠にありがとうございました。明治7年来140年間の歴史をここに閉じることになりましたが、今までの富山小同様に加茂学園へのご支援ご理解をお願いいたしまして結びさせていただきます。

富山小学校長　榊　仁

白鳥小学校

優しさに包まれて

昭和四十七年四月に朝星原小学校、大久保小学校、月崎小学校が統合し、白鳥小学校が誕生して四十一年が経ました。この四十一年間で九百六十九名の卒業生と、最後の在校生二十六名を加え、九百九十五名の子ども達がこの白鳥小学校で活動をしてきました。

今回、閉校記念誌の作成に当たり、多くの卒業生から白鳥小学校に関わる思い出の一文を寄稿していただきました。赤・青・黄・緑四チーム対抗の運動会、カレーや豚汁を作り、歌や劇を発表した白鳥っ子祭、修学旅行での宿屋での一晩、田植えや稲刈り、芋掘り体験、学校の周りの田んぼや水路でのザリガニ捕りや鮎の放流等々、楽しかった思い出が随所に書き記されていました。

どの文章からも、友達との交流、泉の恵み、そして、保護者や地域の方々のご支援への感謝の気持ちが溢れていました。

白鳥小学校は閉校となりましたが、白鳥小学校が育んできた心の優しさは、九百九十五名の同窓生そこに勤務した百十一名の職員、そして、白鳥小学校に関わった多くの地域の方々の胸にいつまでも、いつまでも残り続けることでしょう。

白鳥小学校長　苔口隆夫

新しき加茂の時代にあんとんねえ

小中一貫校の加茂学園が開校しました。加茂小学校の最初の入学式も行われました。これに先立ち小湊線のダイヤが改正され、里見駅での列車の交換が可能となり、無人駅だったところに駅員さんが配置されました。また、高滝地区などに学生の送り迎えをメインとする路線バスが運行されるようになりました。そして4月27日には園児全員が開通し、市原鶴舞インターからの乗り降りが可能となり、高速バスの発着も始まります。さらに来年開催される中房総国際芸術祭の「いちはらアート×ミックス」の芸術作品の準備が本格始まります。この芸術祭は先の事例の越後妻有や瀬戸内の芸術祭の3年ごとの開催と同じように、3年ごとに開催されるようです。準備してきたことが、この平成25年に次々と実現し、加茂とその周辺の全く新しい時代の到来を告げているようです。無人駅だったところや休耕田だったところに多くの人の手で菜の花が植えられたくさんのカメラマンや観光客が訪れるようになり、平日でも観光バスが来るようになるとは、10年前には誰も想像出来なかったはずです。そして、来年には数十万人のこの地の芸術祭に訪れる姿ようと考えられています。

目に見えることだけでなく、加茂の将来を見据えた今何をしなければならないのかを考える「加茂地区長期戦略ビジョン策定委員会」の創設・活動や、それぞれの地域で活動する里山の会、または産直のかたち、あるいは地域の青年団組織などの目に見えない形での動きは少しずつ実を結んできていると思います。

過疎と言われる加茂地区に多くの若い芸術家や観光のお客さんがやってきます。この地を気に入り、この地に住みたいと考えてもらえるような地域にしていくのは、行政ではなく私たちの責任です。いつか加茂地区の将来も「あんとんねえ」と思える時代が来るのでは考えます。

里山からの発信

あんとかなんねだおか

ところで、この春に加茂地区のタケノコを福島に持っていこうという計画があって、南総加茂の里山会議でもそのことで協力をお願いした経緯があったのですが、ある方面から自粛してほしいとの話がありました。

それでは産直の売覚はもちろんのこと、市内の数千店の飲食業は市原産のタケノコを使うことができないし、子供を抱える親たちもまた神経質にならざるを得ません。明らかに昨年の数値は下がっているのですから、早く検査をしてその結果を知らせてほしいと思います。

同じく昨年出荷の自粛をしていた大多喜町では3月14日に検査をして安全が確かめられたとする旨の紙が出ていて、店頭にたくさんのタケノコが並んでいます。市原でも早い対応が望まれます。本当に「あんとかなんねだおか」と加茂の人間だけでなく、多くの人が考えていることと思います。

あんでんかんでん

ここのところ鴨下町会で1年をかけて産直の準備を進めてきました。これも過疎の進む地域によって何らかの活性化になることをしようとの発想から道駅前での産直を始めようと考えたのです。途中激しい議論もありましたが、いざオープンしようとする頃にはメンバーがそれぞれ思うことを積極的にやるようになっていました。ある者はテーブルと椅子を作って用意し、ある者は柱となる巣箱パイプを竹で覆い、ある者は出品してくれるようにいろいろな人にあたってくれていたり、あ者はオープンのサービスにといろいろなものを用意したりするようになっていました。地域の活性化とは他ならない地域の人間の活性化なのだということがよく分かります。

嵐かと思われる強風に見舞われ、各地のイベントが出止めとなった当日、地域のお生寄りが自分の栽培を持ってきて並べたところ、それを見た知らお生寄りが次は自分も出そうと考えたようでした。店じまいの頃、自分の残った品を一輪車で取りに来たお生寄りに「完売で持って帰るものがないよ」と声をかけると、本当にうれしそうに笑っていました。

あんでんかんでんと言ってみんなで売ってみようと、他の産直とはちょっと違うぞということを目指した「あんでんかんでん市」はどうやら地域の人間の活性化になりそうだと予感させてくれる船出となりました。そこに来たある人が「産直はみんなが笑顔になっていいね、みんなで楽しもう」と感想を述べてくれました。

（征矢里山通信員）

里山の山菜

春の山菜を楽しみましょう！

ふきのとう、ヨモギ、たらの芽、ウド、せり、クレソン、こごみ等々。天ぷらにすればたいていの物は美味しく食べられますが、さっと茹でただけでも春の味が楽しめますよ。たけの子の顔を出し、土手にフキの葉っぱが目立ってくるこの時期になると、お母さんたちの目の色が変わってきます。野フキが群生している秘密の場所を何カ所かおさえていても、日々パトロールをしていないと先を越されてしまう場合があるからです。このフキはおいしいキャラブキに変身します。

最近では観光名所を増やそうとボランティアの方々と菜の花の種まきをしていますが、やっと咲いてきたかな思っていると朝6時頃から花を摘んでいる団体が・・・（控えめにお願いします）

いよいよワラビが出始めましたがタケノコと一緒にお味噌汁が美味しいですが、おひたしにすると抜群です。

◎ワラビのお浸しおろし生姜・・・あく抜きしたワラビをさっとゆでる。麺つゆにおろし生姜を加え、わらびを浸しておく。

※ワラビのあく抜き・・・ワラビをポリに入れ（分量により鍋、バケツ等）重曹をふりかけ（灰でも可）、熱湯を注ぐ。ワラビが浮かないようにお皿で抑え、一晩おく。気温の上昇とともにコゴミが一斉に出始めました。コゴミはあくが無いのでさっとゆがいてピーナッツ和えやみそマヨネーズでどうぞ！

◎コゴミのピーナッツ和え・・・ピーナッツバター（粉末でもよい）大さじ3、めんつゆ大さじ1、だし汁大さじ2、砂糖大さじ1をよく混ぜる。※だし汁は熱くして下さい。ゆでたコゴミにピーナッツだれをかける。

（大倉根R里山通信員）

房総・養老渓谷の地酒お土産は
養老渓谷駅前
角屋商店
養老渓谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL0436-96-1108
FAX0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らし応援します！
安全・安心
有限会社　全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL0436-96-0482
FAX0436-96-1293

皆様と共に歩む観光

バス釣り　真っ最中！
高滝湖観光企業組合
TEL　0436-98-1277

鶴舞バスターミナルが運用開始！

円尾・連絡されたバスターミナルがいよいよ運用されます。4月6日には加茂学園の子供たちの通学を考えてすでに路線バスが乗り入れを開始、4月27日の園児全員の開通習日の28日からは高速バスが運行を始めます。羽田空港まで45分、東京まで60分と、出かけるのにも便利になりますし、ゴルフ場への来客や、来年に開催される中房総国際芸術祭アート×ミックスへの来場者にも大きな期待をしたいところです。

4月28日には市長をはじめ多くの来賓と、円尾、山川の地元住民らによる記念式典が開催されます。南市原の活性化にとっては明るいニュースとなります。

（大倉根・里山通信員）

魚屋の戯言

突然ですがここで質問です。あなたは次の漢字を国字のうち読み方がいくつ存知でしょう？

鯛 鮪 鰹 鯨 鮫 鰹 鰯 鮭 海に住む生物の漢字・国字表記を工夫凝らしてみました。最初の何字かは読めておんだん知らない字が増えて来たのではないでしょうか？

意地の悪い私としてはもっと珍しい字も出題したいところですが、あまりマニアックすぎる字だと正しく回答できない恐れがあるのでこのくらいしか挙げられませんでした。この程度や難しさがないとおっしゃる博識の方は教えて下さい。

魚を表す字には面白いものがいくつもあります。魚へんに平と書いてひらめのように外見の特徴から取ったもの。魚へんに里と書いてコイ、雪と書いてタラは生息している環境を字に取り入れたものでしょう。鮭のように発音から作られたと想像できる字もあります。鱈は季節を感じさせてくれます。あるいは物語的な親子丼娘さんにまつわる伝説が基になったと言われる字もあります。

しかも興味深いのは日本と漢字発祥の国である中国とでは全く違う魚に同じ字が当てられていることです。例えば鮎は日本ではアユと読みますが、中国では鯰を使っていたのかもしれません。鮭も中国ではフグの事で、鮭のことは鮭と書くようです。その鮭はアイヌ語で夏の食べ物という意味のシャケンベが語源だとの説を初めて聞いた時、それまではトキシラズを除いて鮭は秋の魚と思い込んでいたので、魚の旬に対する感じ方も変わったのだなあと改めて教わった思いでした。

魚という字をかなと読むようになったのはそんなに古い時代ではありません。もの本によれば、江戸時代より前はさかなを鱠菜、或いは肴と書いて魚はウオとしか読まなかったようです。言うまでもなく菜は副食を意味します。つまり酒と共に出される料理は全てさかなと呼ぶので、必ずしも魚介類に限らなかったこの訳もあるのですが、とりわけ酒・肴性良かった魚類をさかなと呼ぶようになったと考えられるのもまた興味深い思います。

文頭の字はそれぞれ、まぐろ、はも、たい、くらし、わかさぎ、ふか、こち、ぼら、このしろが答えでした。そう言えば武家社会、鮫はかなり忌み嫌われていたそうです。

この城を焼いて食う」を連想させるのが理由だとか。今宵のさかなは何にしようかと迷うのもまた楽しいひと時だと思います。

（鈴里山通信員）

加茂米米くらぶ便り

がんばっぺ！　加茂

4月の新年度を迎え、通りバスの停留所がいくつか立つ報道の通り、いよいよ加茂地区にトします。子供たちの通学のンター完成に伴い、小湊鉄道（株）の協力のたまものであります。今後継続して運行されるには、地区住民も協力する必要があろうかと思っています。現在加茂地区において、整備後はこれを超えること の開通早と並行してアートミックスが本年度開催されるんなふうになるのか想像できない段階ではありますが、今年1年間を通して多くの出展者が訪れます。また、団塊の世代の人たちが、加茂地区のあちこちで活動をおこしています。それに続く我々もつらいれてこの地区が元気になるよう頑張らねばと考えているところです。

加茂ぺっぺ語わーるど

米駅前に産直を作ろうというA「ここにあるいたんだは、そら、ちーとそっちぶっちゃげからら、そっちばとてもらって、うまからつんなら私まっつくなっぺ」

A「だいたい、いいっぺけんがあんまんまでつと、かっこりかんな」

B「いいっぺよおおばがつったもんは、こんなもんだよ、はそーとおわりんべよー」

（吉沢里山通信員）

編集後記

・今回の全面カラーの加茂里山通信はいかがでしょうか。当初写真だけにしようかと思いましたが、せっかくの機会なのでタイトルも含めて全面カラーで仕上げてみました。毎号こうなるというのですが、予算上1回だけです。1年目の記念として残すようなものを考えました。今回はまた、四つの小学校の閉校と小中一貫校の加茂学園の開校それに園央道の開通にいろいろなことが重なり、加茂の歴史の中でも特筆すべき春となりました。来年開催される国際芸術祭を含めると、私たちは未加茂の歴史の節目にいるのかなと思います。左の写真のように廃線となったところにも花は咲きます。消えゆくものに新たな命を宿すものの変遷を体感する一の春です。

・閉校する小学校の校長先生方には本当にご多忙の中、記事の執筆をお願いしました。最後の校長先生たちの思いが伝わってきます。それぞれの閉校式にはいろいろな思いを抱いた地元の卒業生が参加して、深い感慨に浸ったことでしょう。私たちが生きている限り、閉校となった小学校もまた心の中に生きていきます。

・桜が散り、すぐに初夏を迎え　山は新緑一色です。アートミックスを含めて今年一年いろいろなことがこの加茂では起こります。地に足をつけて、見守り伝えて行きたいと思います。

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へ
メールでも受け付けます。
紙面及び記事に関する意見・お問い合わせは左記へ
市原商工会議所
0436（22）4305　担当　**轟崎**まで
Eメール　shimazaki@r-cci.or.jp

フィンランドからの理想の住まい、ホンカログホーム
モデルハウス公開中！
断熱効果が高く、身体に優しい家を体感してください。
◆ギャラリースペースお貸しします。
絵画・写真・陶芸・手芸等、作品展を開いてみませんか？
開館時間 10:00～17:00
HONKA
www.honka.com
Today's homes. Naturally.
ホンカ房総　太陽工業株式会社 ログホーム事業部
TEL0436-95-5641　FAX0436-95-5642　http://www.honka-bousou.com

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本　社　市原市万田野 26　TEL 0436(96)1311
市原支店　市原市惣社1－1－22　TEL 0436(24)0511
南総支店　市原市牛久450－1　TEL 0436(50)0111
URL http://www.sugita-group.com/